様式1

令和５年度　学校評価表

学校教育目標	心豊かで　確かな力を持ち　たくましく生きる子どもの育成

a　ミッション	小中連携教育を基盤とした カリキュラム・マネジメントの推進による主体性・表現力の育成	a　ビジョン	学校は面白いところ！　～わかった、できた、もっとやりたい～

尾道市立向島中央小学校

評価計画						自己評価					学校関係者評価				改善計画
	b 中期経営目標	c 短期経営目標	d 目標達成のための方策	e 評価指標	f 目標値	7月 g 達成値	1月 g 達成値	h 達成度	i 評価	j 結果と課題の説明	k 二次評価 イ	ロ	ハ	l コメント	m 改善案
新たな学びへの挑戦	【確かな学力の育成】 主体的な学びが育まれる学校風土の醸造	育成すべき資質・能力（気づく力・つかう力・挑戦する力）を意識した授業づくり	数学的な見方・考え方を働かせて、学びをつなぐ授業づくりの推進	・授業でめざす児童の姿に到達する児童の割合 ・児童アンケートで肯定的評価の児童の割合 ・学期末テスト（算数）の正答率８０％以上の児童の割合 ・標準学力テスト（算数）目標値基準以上の児童の割合	80% 80% 80% 80%	81% 90% 72% —		101% 113% 90% —	A A B —	・授業でめざす姿に到達した児童は、８０％に達した。これまでの授業改善により、本時で使う既習事項とそれを使った児童の姿を明確にし、毎日の授業でくり返し積み重ねた成果と考える。 ・算数で既習事項を使って問題を解いていると回答した児童は９０％おり、目標値を上回った。こちらも習ったことを使って問題解決させる授業改善の成果である。一方で、習ったことは使うことが大切と分かっていても実際には使えていない児童や算数に苦手意識をもっている児童も一定数いることがわかった。 ・学期末テストの結果は７２％と目標を下回った。どの学年でも朝学習や個別学習の成果が出る一方で、計算が定着しない、問題場面が読み取れない、算数用語を適切に理解していないなどの課題が見られた。	3			・子ども達が興味をもって取り組めるように、根気強く関わっていただいていることが理解でき、大変感心をしました。今後も粘り強く子ども達と関わり援助をお願いしたい。 ・基礎学習はとても重要であるが、子ども達にとっては辛いと感じることがあると思う。できる限り「できた」「おもしろい」と思えるような取組を今後も期待しています。 ・今後全国から見た学力を数値化していただき、客観的に成果が感じられる資料を確認したい。 ・異学年での取組は大変有効であると考える。こども園を巻き込みながら一緒に子ども達を育んでいきたいと考える。 ・子ども達に達成感を視覚的に感じられるような工夫をしてみてはどうか。 ・日々の授業づくりの中で、それぞれの単元でつけるべき力を明確にして取り組み定着させていくことが、子ども達の「わかった！できた！もっとやりたい！」につながり、確かな力となるよう取組を進めていることが分かりました。	・授業改善と補充等の基礎学力定着の取組を継続し，それらにおいて，児童が「わかった！できた！」を感じられるような授業展開も工夫やできたことを認める声かけを大切にする。 ・学力補充は，教師の働き方だけでなく，児童同士の関わりで力をつける取組を行う。 ・次回は，標準学力調査の結果と全国から見た本校の学力の位置を報告し，本校の成果と課題を整理する。
積極的生徒指導の推進	【豊かな心力の育成】 子供達の笑顔と温かな空気があふれる学校の創造	育成すべき資質・能力（気づく力・つかう力・挑戦する力）を意識した仲間づくり	・児童のアイディアを活かした異学年交流の充実 ・自己の目標を設定し、課題克服に向けチャレンジできる環境づくりの推進	・児童のアイディアを活かした異学年交流の目標回数を上回った学年数の割合（目標　各学年３回以上／前期・後期） ・異学年交流に主体的に関わった児童の割合（児童アンケート） ・柔軟運動の取組に対する児童アンケートで肯定的評価の児童の割合 ・体育科の授業でサーキットトレーニングを実施した割合	83%(5/6) 85% 80% 95%	83%(5/6) 80% 88% 94%		100% 94% 110% 98%	A B A B	・栽培した野菜を調理したり、学習したことを後輩に教えたり、全校で楽しむ活動を考えたりと高学年や児童会執行部を中心に異学年の交流に取り組むことができた。 ・児童は異学年交流を通して相手を意識して行動することの大切さや自分自身を見つめ直し、人と関わる時に必要な力について気づいていた。しかし、異学年の人と関わることの難しさを感じている児童も多くいた。 ・全校集会で全教職員、全児童と柔軟運動に取り組む目的や評価における共通のものさしをもって取り組むことができた。一方、自己の目標が具体的な数値として見えにくい側面があった。 ・昨年度からの継続的な取り組みということもあり、ほとんどの学年の実施率が１００％であった。低学年は、やり方を覚え軌道にのせるまでに時間を要するという実態もあった。	3			・心力の育成には様々な五感を刺激するアプローチが必要だと思っています。子ども一人一人が豊かさを育めるように主体的な子ども達の発信を活動に結びつけていることが今後の学習に生かされると感じました。 ・子ども達同士の異年齢活動の充実と継続を、校長先生・教頭先生を筆頭とした職員集団がチームとなり、子ども達集団と単に楽しむ活動を取り入れ「楽しさ」「面白さ」の共有・共感を味わっても楽しいのでは…と思いました。 ・自分のよさに気づき相手のよさ、自分との違いに気づき、認め合いともにがんばろうとすることができる学校の風土を目指していることがよく分かります。	・異学年での交流で得るものは多いので、今後も児童が主体的にアイディアを出せる場を作りながら児童同士が関わる楽しい交流の充実を図っていく。 ・各学級で取組状況が分かる掲示をすることにより，自己の課題をより明確に捉えるとともに，他者との関わりの中で自己を伸ばしていくできるような環境整備を行う。

【自己評価　評価】
Ａ：１００≦（目標達成）　　Ｂ：８０≦（ほぼ達成）＜１００
Ｃ：６０≦（もう少し）＜８０　　Ｄ：（できていない）＜６０

【外部評価】　イ：自己評価は適正である。ロ：自己評価は適正でない。　ハ：わからない。

様式2

方策進行管理シート　（　　）年（　　）組　あおぞら（　　）組

令和５年度　尾道市立向島中央小学校

	目標達成のための方策	活動	4月 目標数 達成数	5月 目標数 達成数	6月 目標数 達成数	7月 目標数 達成数	活動達成度	方策達成度	取組評価
【確かな学力の育成】	数学的な見方・考え方を働かせて，学びをつなぐ授業づくりの推進	数学的な見方・考え方を働かせためざす児童の姿の評価基準を学年で設定して授業し，評価する（A数と計算領域）	単元名「　　」 A（22.0）％　B（58.8）％　C（19.2）％				101	84	B
		朝学習の実施（週２回）・計画とふり返り	6回	6回	11回	6回	90		
			5.1	5.2	10.1	5.8			
		ふり返り完了チェック欄	85%	86%	92%	97%			
		数学的な見方・考え方のアイテムをつかった授業と「ちょこっとふり返り」または「ふり返り」の時間の実施（毎時間）	100%	100%	100%	100%	61		
			57%	61%	64%	62%			
【豊かな心力の育成】	・児童のアイディアを活かした異学年交流の充実	・児童のアイディアを活かした異学年交流の目標回数を上回った学年数の割合　83%（5/6） （目標　各学年３回以上／前期・後期）	交流内容 学校探検・ウーバーティーチャー　等 5/6				100	97	B
		・異学年交流に主体的に関わった児童の割合85% （児童アンケート　前期・後期）	85% 80%				94		
	・自己の目標を設定し，課題克服に向けチャレンジできる環境づくりの推進	・柔軟運動の取組に対する児童アンケートで肯定的評価の児童の割合	80% 88%				110	104	A
		・体育科の授業でサーキットトレーニングを実施した割合	95%	95%	95%	95%	98		
			92%	94%	97%	93%			

【取組評価】　A：100≦（目標達成）　B：80≦（ほぼ達成）＜100　C：60≦（もう少し）＜80　D：（できていない）＜60